

目 次  
〔ロシア語科〕  
2年

前・後期

|                        |      |
|------------------------|------|
| 実用ロシア語会話（スレイメノヴァ・アイーダ） | P1   |
| 実用ロシア語文法（イリイン・ロマン）     | P2   |
| ロシア語講読（鳥飼やよい）          | P3   |
| ロシア語演習（イリイナ・タチヤナ）      | P4   |
| 通訳翻訳の演習（イリイン・セルゲイ）     | P5   |
| 英語（パドスーシヌィ・ワレリー）       | P6   |
| ロシア史（グラチェンコフ・アンドレイ）    | P7~8 |
| ロシア文化史（スレイメノヴァ・アイーダ）   | P9   |
| 外国語としてのロシア語（イリイン・セルゲイ） | P10  |
| 体育（選択科目）（高橋厚一）         | P11  |

前期

|                     |     |
|---------------------|-----|
| ロシア文化史（デルカーチ・フョードル） | P12 |
| 法学入門（選択科目）（荒木知恵）    | P13 |

|            |  |                    |
|------------|--|--------------------|
| 教科名        | 実用ロシア語会話（前・後期）   |                    |
| 学年・学科名     | 第2学年 ロシア語科   | 【担当教員】スレイメノヴァ・アイーダ |
| 時間数・期間     | 前期16週 4時間・64時間 後期16週4時間・64時間 総128時間  |                    |
| 教科書など      | ロシア語の新しい習い方 第1部  |                    |
| 補助教材・参考書など | プリント類、ビデオ  |                    |
| 学習到達目標：    | 教科書内容に添った語彙習得により、テキストを理解できるようにする。また、テキストの内容に添った質問に答えることや会話を覚えることにより自己ロシア語会話力をつける。担当教師の質問に答え、また自らもロシア語でテキストを作成することができる。 |                    |
| 学習上の留意点：   | 1. 会話には集中して臨むこと。<br>2. 新しい語彙・文法を使いつつ、質問事項には自分の意見を盛り込んで答えること。   |                    |
| 評価方法：      | 試験、小テストの結果と出席率、授業態度、提出物等すべての項目を評価に含んだ総合評価形式とする。  |                    |
| 授 業 項 目    |  |                    |
| 前期         |  |                    |
| 回          | 内 容  |                    |
| 1～10       | ガイダンス、<br>第8課 テキスト《彼らの生活について一言》。《クセニヤと彼女の友達》。<br>テキストに関する会話を設ける。会話。  |                    |
| 11～20      | 第9課 テキスト《偉大なる海、聖なるバイカル湖》。《賢いオオム》。《新アルバートV》。<br>《ふとん娘》。会話。  |                    |
| 21～31      | 第10課 テキスト《兄弟の涙》。《アルバート通り》。《新アルバート大通り》。《プシキン》。指小形。<br>会話。   |                    |
| 32         | まとめ、テスト  |                    |
| 後期         |  |                    |
| 回          | 内 容  |                    |
| 1～19       | 第11課 テキスト《インタビューを受けるスポーツマンの妻》。《りんごの実がならない木》。<br>《うそは続かない》。   |                    |
| 20～32      | 第12課 テキスト《カフェで》。《私の一週間》。《三人の教え子》。《北ロシア地方》。造格。<br>会話。   |                    |

|  |   |                 |
|--|---|-----------------|
| 教科名  | 実用ロシア語文法（前・後期）  |                 |
| 学年・学科名   | 第2学年 ロシア語科  | 【担当教員】 イリイン・ロマン |
| 時間数・期間   | 前期16週 4時間・64時間 後期16週 4時間・64時間 総128時間                              |                 |
| 教科書など  | М.П.Аксенова «Русский язык по-новому»<br>ロシア語の新しい習い方 第1部（ズラトウスト社） |                 |
| 補助教材・参考書など   | プリント類（随時）   |                 |
| 学習到達目標：  | 1学年時に覚えた文法項目を生かしながら新しい項目を習って、ロシア語の読み書き、会話力、理解を高めロシア語の学習を続ける。      |                 |
| 学習上の留意点：学習者は文法がロシア言語語体系の大事な構成部分であることを理解した上 それは音声・語・形態論・措辞論への入り口であることを把握せねばならぬ。文法の知識はロシア語文章を読むことと繋がり文章の内容を日本語に訳す練習にもなる。 |   |                 |
| 評価方法：試験、小テストの結果と出席率、授業中態度、提出物などすべての項目を評価に含んだ総合評価形式とする。   |   |                 |
| 授 業 項 目  |   |                 |
| 前期   |   |                 |
| 回  | 内 容   |                 |
| 1～7  | ガイダンス、<br>8課 所有代名詞と指示代名詞の対格。時刻の表現。1千までの数詞。人称代名詞の与格形。              |                 |
| 9～16   | 9課 数量の表現。名詞、形容詞、所有代名詞の生格形。関係代名詞。                                  |                 |
| 17～25  | 10課 代名詞 <i>свой</i> の用法。直接話法。 <i>Потому что</i> 構文                |                 |
| 26～31  | 12課 合成未来。所有表現。直接目的語。否定代名詞。条件法。                                    |                 |
| 32   | まとめ、テスト   |                 |
| 後期   |   |                 |
| 回  | 内 容   |                 |
| 1～12   | 12課 運動の動詞 <i>ходить-ездить</i> 。造格。動詞の体。                          |                 |
| 13～18  | 13課 運動の動詞の完了・不完了体。無人称文。不一致定語。                                     |                 |
| 19～24  | 14課 不定人称文。理由を説く構文。願望・希望の <i>бы</i> の用法。                           |                 |
| 25～32  | 15課 目的地、情報源、出発点の表現。仮定法の時制・体                                       |                 |

|            |   |             |
|------------|---|-------------|
| 教科名        | ロシア語講読（前・後期）  |             |
| 学年・学科名     | 第2学年 ロシア語科  | 【担当教員】鳥飼やよい |
| 時間数・期間     | 前期16週2時間・32時間 後期16週2時間・32時間 総64時間   |             |
| 教科書など      | Практический русский язык ХРЕСТОМАТИЯ 「実用ロシア語講読書」S・コーネワ                           |             |
| 補助教材・参考書など | 配布資料  |             |
| 学習到達目標：    | 1年の「ロシア語講読」に引き続き、文法の知識を基にテキストを正確に読み取る能力を養う。語彙力を高め、広くロシア語を読み理解する能力をつけるための基礎作りを目指す。 |             |
| 学習上の留意点：   | 1. テキストの予習が大前提である。<br>2. 各テキストについて完全な翻訳文を完成させ提出すること。                              |             |
| 評価方法：      | 数課ごとのテスト、期末試験、出席、宿題の総合評価とする。  |             |
| 授 業 項 目    |   |             |
| 前期         |   |             |
| 回          | 内 容   |             |
| 1          | オリエンテーション   |             |
| 2～3        | 第1課《ОЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ?》「マラブーは何を思うのか？」  |             |
| 4～5        | 第2課《КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД》「新年の出来事」   |             |
| 6～7        | 第3課《ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК》「一番好きな祝日」  |             |
| 8          | テスト   |             |
| 9～10       | 第4課《СОЛИСТКА ОПЕРЫ》「オペラのソリスト」   |             |
| 11～12      | 第5課《МИМОЗЫ》「ミモザ」  |             |
| 13～15      | 第6課《ВЕРНОЕ СЕРДЦЕ》「誠実な心」  |             |
| 16         | 総復習   |             |
| 後期         |   |             |
| 回          | 内 容   |             |
| 1～2        | 第7課《ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ》「空の出来事」   |             |
| 3～5        | 第8課《СЧАСТЛИВЫЙ ГУСЬ》「幸運の鷺鳥」   |             |
| 6～8        | 第9課《ПРИВЕТ ОТ ДИМКИ》「ディムカからのことづけ」   |             |
| 9          | テスト   |             |
| 10～12      | 第10課《БОРОДАТЫЙ ВНУК》「ひげ面の孫」   |             |
| 13～14      | 第11課《СЫН ЛЁТЧИКА》「パイロットの子」  |             |
| 15～16      | 第12課《САМЫЙ СЧАСТЛИВЫЙ ДЕНЬ》「一番幸せな日」   |             |
| 17～19      | 第13課《НОВОСЁЛЫ》「お引っ越し」   |             |
| 20         | 総復習   |             |

|            |   |                 |
|------------|---|-----------------|
| 教科名        | ロシア語演習（前・後期）  |                 |
| 学年・学科名     | 第2学年 ロシア語科  | 【担当教員】イリイナ・タチヤナ |
| 時間数・期間     | 前期16週2時間・32時間 後期16週2時間・32時間 総64時間   |                 |
| 教科書など      | ロシア語の新しい習い方 第1部（ズラトウスト）、ビデオ教材 «Чудо-мальш» для начинающих.  |                 |
| 補助教材・参考書など | Ильина Татьяна. Словарь к аудио-курсу «Чудо-мальш» для начинающих. Хакодате, 2016 г.  |                 |
| 学習到達目標：    | 教科書の内容に添った語彙の習得により、テキストを聴力のみで理解できるようにする。また、テキストの内容に添った質問に答えることにより、自己のロシア語発話力をつける。   |                 |
| 学習上の留意点：   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習には集中して臨むこと。新しい語彙・文法は確実に覚えてから演習に入ること。</li> <li>・新しい語彙・文法を使いつつ、質問事項には自分の意見を盛り込んで答えること。</li> </ul> |                 |
| 評価方法：      | 期末試験、筆記テスト  |                 |
| 授 業 項 目    |   |                 |
| 前期         |   |                 |
| 回          | 内 容   |                 |
| 1          | ガイダンス   |                 |
| 2～4        | ビデオ：一緒に遊びましょう   |                 |
| 5          | 復習、小テスト   |                 |
| 6～8        | ビデオ：紹介  |                 |
| 9          | 復習、小テスト   |                 |
| 10～12      | ビデオ：公園で   |                 |
| 13         | 復習、小テスト   |                 |
| 14         | まとめ   |                 |
| 15～16      | 学年末試験への準備   |                 |
| 後期         |   |                 |
| 回          | 内 容   |                 |
| 1          | 前期の復習   |                 |
| 2～3        | 教科書「ロシア語の新しい習い方」復習  |                 |
| 4～6        | ビデオ：牧場で   |                 |
| 7          | 復習、小テスト   |                 |
| 8～9        | 教科書「ロシア語の新しい習い方」復習  |                 |
| 10～12      | ビデオ：僕の誕生日   |                 |
| 13         | 復習、小テスト   |                 |
| 14～15      | 教科書「ロシア語の新しい習い方」復習  |                 |
| 16         | 総まとめ  |                 |

|            |  |                    |
|------------|--|--------------------|
| 教科名        | 通訳翻訳の演習（前・後期）  |                    |
| 学年・学科名     | 第2学年 ロシア語科   | 【担当教員】スレイメノヴァ・アイーダ |
| 時間数・期間     | 前期16週 4時間・64時間 後期16週 4時間・64時間 総128時間   |                    |
| 教科書など      | B. Незамуддинов 著、「通訳論」、ロシア極東国立総合大学、1998年  |                    |
| 補助教材・参考書など | 担当者作成の配布資料   |                    |
| 学習到達目標：    | ロシア語のみならずロシア文化、ロシア史、ロシア政治体制なども理解できるようになる。  |                    |
| 学習上の留意点：   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は教科書に沿って進めるので教科書をかならずもってこること。</li> <li>・授業で積極的な態度を表わすこと。</li> <li>・習ったことを自宅で少しでも復習すること。</li> </ul> |                    |
| 評価方法：      | 評価は2回の試験の成績の平均とする。各期の合格点は60点以上である。各期の評価は小テスト20%と試験80%の割合とする。   |                    |
| 授 業 項 目    |  |                    |
| 前期         |  |                    |
| 回          | 内 容  |                    |
| 1          | ガイダンス  |                    |
| 2～9        | 第1課 三頭の熊<br>第3課 狐と鶴  | まとめと作文             |
| 10～12      | 第2課 日本における女性   | まとめと作文             |
| 13～20      | 第4課 ロシアにおける教育制度<br>第14課 極東大学   | まとめと作文             |
| 21～30      | 第5課 ロシアの作家<br>第13課 プーシキン博物館  | まとめと作文             |
| 31         | まとめ  |                    |
| 32         | まとめ、前期試験   |                    |
| 後期         |  |                    |
| 回          | 内 容  |                    |
| 1～7        | 第6課 オリンピック大会   | まとめと作文             |
| 8～24       | 第7課 ロシアの白樺<br>第8課 ロシアの人形<br>第9課 ロシアの美術館  | まとめと作文             |
| 25～31      | 第11課 ロシアのお土産<br>第12課 ロシアのお盆  | まとめと作文             |
| 32         | まとめ、後期試験   |                    |

|            |  |                      |
|------------|--|----------------------|
| 教科名        | 英語（前・後期）   |                      |
| 学年・学科名     | 第2学年 ロシア語科   | 【担当教員】パドスーシヌイ・ワレリー   |
| 時間数・期間     | 前期16週4時間・64時間  | 後期16週4時間・64時間 総128時間 |
| 教科書など      | interactions2 Listening/speaking<br>Judith Tanka/Lida R.Baker McGraw-Hill,New York,2014                                    |                      |
| 補助教材・参考書など | Interactions2 Listening/speaking Listening Tape  |                      |
| 学習到達目標：    | 大学生にとって身近な様々な社会問題を取り扱ったレクチャーを聞く。大意の掴み方、細部の聞き取り、ノートテイキングの技術、パブリックスピーチの方法、パブリックスピーチの組み立て等を学び、各課の終わりには実際のテーマについての口頭発表を行う。     |                      |
| 学習上の留意点：   | 評価方法：5（90～100%）、4（80～90）、3（70～80）不合格（～69%）<br>各課ごとに単語テスト、内容把握の筆記試験、口頭発表の試験を行う。<br>宿題 10%、出席 10%、各課のテスト（筆記と口頭）50%、最終テスト 30% |                      |
| 授 業 項 目    |  |                      |
| 前 期        |  |                      |
| 回          | 内 容  |                      |
| 1～10       | ガイダンス、<br>Lesson1<br>Education and student Life  |                      |
| 11～19      | Lesson2<br>City Life   |                      |
| 20～28      | Lesson3<br>Business and Money  |                      |
| 29～31      | Lesson4①～③<br>Jobs and professions①～③  |                      |
| 32         | まとめ、テスト  |                      |
| 後 期        |  |                      |
| 回          | 内 容  |                      |
| 1～7        | Lesson4④～⑩<br>Jobs and professions④～⑩  |                      |
| 8～17       | Lesson5<br>Lifestyle Around the World  |                      |
| 18～27      | Lesson6<br>Global connection   |                      |
| 28～32      | Lesson7①～③<br>Language and communication①～③  |                      |

|   |   |                            |
|---|---|----------------------------|
| 教科名   | ロシア史 (前・後期)   |                            |
| 学年・学科名  | 2年 ロシア語科  | 【担当教員】グラチェンコフ アンドレイ        |
| 時間数・期間  | 前期16週 2時間・32時間  | 後期16週 2時間・32時間 総64時間       |
| 教科書など   | 使用する。   |                            |
| 補助教材・参考書など  | 適切な参考書を授業中に配布する。  |                            |
| 学習到達目標：   | 講義の目的は、ロシア語を学ぶため、またロシアに関するさまざまな研究を進めるために欠くことのできないロシア史の基礎知識を身につけることである。古代スラブ世界にはじまり、8世紀、10世紀をへて、12世紀末にいたるまでのロシアの歴史の流れを概観する。具体的には、キエフ国家を中心に、古代ロシアの五百年にわたる政治・経済・文化の歴史を通覧し、キエフ・ルーシという国への理解を深め、あわせて、ルーシと周辺諸国との関係の理解への道を探ることを目的とする。 |                            |
| 学習上の留意点：教科書を使用し、時々、プリントを配布する。またビデオ等の視聴覚教材は利用しないので板書で説明する。授業の進行に合わせて参考書を読んでおくとう理解しやすい。質問は授業中、授業後に受ける。出席は毎回とる。              |   |                            |
| 評価方法：期末に行う筆記試験の成績に出席を加味する。筆記試験は、自筆ノート、配布プリントの持込可。ただし試験問題を解くためには、日頃、講義を真面目に受けている必要がある。真面目に授業を受けていれば、試験での不合格を心配することはないであろう。 |   |                            |
| 授 業 項 目   |   |                            |
| 前期  |   |                            |
| 回   | 内 容   |                            |
| 1   | ガイダンス   |                            |
| 2   | キエフ国家成立1  | 東スラブ諸族の世界                  |
| 3   | キエフ国家成立2  | ルーシ族の問題とノルマン説              |
| 4   | キエフ国家成立3  | イゴリ公と巡回徴貢制                 |
| 5   | キエフ国家成立4  | オリガ妃の改革                    |
| 6   | キエフ国家成立5  | スワトスラブ公とハザル国               |
| 7   | キエフ国家成立6  | 聖ウラジメルの政権とギリシヤ政教の国教化       |
| 8   | キエフ国家解体1  | キエフ大公と諸公間関係、大公位を巡る戦い       |
| 9   | キエフ国家解体2  | キエフ都とノウォゴロド都、北方ルーシの特徴性     |
| 10  | キエフ国家解体3  | ヤロスラフ賢公とルーシ法典              |
| 11  | キエフ国家解体4  | ウラジミル・モノマフ政治               |
| 12  | キエフ国家解体5  | ウラジメルースズダリ公国の台頭とキエフ公国意義の低下 |
| 13  | キエフ国家解体6  | キエフ・ルーシの封建制の独特性            |
| 14  | 西方と東方の間に1   | キリスト教の分裂、十字軍の始まり           |
| 15  | 西方と東方の間に2   | ビザウンテイン帝国滅亡と北方十字軍の始まり      |
| 16  | 西方と東方の間に3   | チンギス・ハンの登場とモンゴル勢力          |



| 授 業 項 目 |                    |                                   |
|---------|--------------------|-----------------------------------|
| 後期      |                    |                                   |
| 回       | 内 容                |                                   |
| 1       | 封建分離制・1            | モンゴル軍の襲来                          |
| 2       | 封建分離制・2            | 「タタルくびき」と北西・北東・南西ロシアの諸公国          |
| 3       | 封建分離制・3            | モスクワの台頭、モスクワとトゥェリ間の戦い             |
| 4       | 封建分離制・4            | イワン・カリタのモスクワ公国の領土拡大               |
| 5       | 封建分離制・5            | モスクワ大公国の成立と発展                     |
| 6       | 統一国家形成・1           | 「タタルくびき」廃棄と専制の成立                  |
| 7       | 統一国家形成・2           | イワン4世の親政と改革                       |
| 8       | 統一国家形成・3           | カザン汗国の征服とリウ“オトアニア戦争               |
| 9       | 統一国家形成・4           | オプリチナ制とその目的                       |
| 10      | モスクワ国家の危機・1        | ボリス・ゴドゥノフ政治と農奴制成立                 |
| 11      | モスクワ国家の危機・2        | 偽ドミトリィ1世・2世の政治と外国の干渉              |
| 12      | モスクワ国家の危機・3        | ロマノフ朝成立と全国会議                      |
| 13      | 17世紀の経済・社会問題・1     | 土地問題と農奴制<br>貨幣制と税制：担税民と非担税民       |
| 14      | 17世紀の経済・社会問題・2     | 対外貿易とシベリア開発<br>官庁と地方行政            |
| 15      | 17世紀のモスクワ国家と周辺諸国・1 | クリミア汗国とトルコ帝国<br>ポーランド大王国とスウェーデン王国 |
| 16      | 17世紀のモスクワ国家と周辺諸国・2 | ウクライナ・コザク国家誕生とロシア・ポランド関係          |

|   |   |                      |
|---|---|----------------------|
| 教科名   | ロシア文学史 (前・後期)   |                      |
| 学年・学科名  | 第2学年 ロシア語科  | 【担当教員】 スレイメノヴァ・アイダ   |
| 時間数・期間  | 前期16週 2時間・32時間  | 後期16週 2時間・32時間 総64時間 |
| 教科書など   | 『はじめて学ぶロシア文学史』藤沼貴、水野忠夫、井桁貞義編。ミネルヴァ書房、2003年  |                      |
| 補助教材・参考書など  | 各著者の原作からの抜粋 (随時プリント類)   |                      |
| <p>学習到達目標: 「世界文学概観」と「ロシア文学」。歴史的な背景にロシア文学の成り立ち (8～18世紀)、その特徴や特殊性を把握する。文芸的な学習だけでなく、授業中ロシア文学の背景知識と呼ばれるロシア人の生活全般一食べ物から礼儀、習慣、言葉から物の見方、考え方、価値観などはビデオを通じて、紹介するつもりである。</p> <p>学習上の留意点: ロシア文学の社会諸問題への関心、国民性、作家の受難、ロシア人の文学への信頼などに注意の重点を置く。授業は教科書 (プリント) に沿って進めるので教科書 (プリント) を必ずもってくる。授業で積極的な態度を表すこと。授業の最後にメモを書くこと。習ったことを自宅ですしでも復習すること。</p> <p>評価方法: 評価は2回の試験の成績の平均とする。各期の合格点は60点以上である。各期の評価はテスト20%と試験80%の割合とする。</p> |   |                      |
| 授 業 項 目   |   |                      |
| 前期  |   |                      |
| 回   | 内 容   |                      |
| 1～4   | ガイダンス、ロシア文学のはじまり: ロシア文学の風土: 文字文学以前、ロシアの自然・歴史・宗教。                                    |                      |
| 5～7   | ロシア文学の特徴: 社会的問題への関心、ロシアの国民性、知識人の課題、求道者的主人公、文学の思想性。ロシアの神話、ロシアのフォークロール (ブイーリナ)、昔話の主人公 |                      |
| 8～10  | 古代文学: キエフ・ロシアの時代、キエフ国家の成立、キリスト教の導入と文化の発展、教会スラブ語と翻訳文学                                |                      |
| 11～12   | 口伝年代記、「イーゴリ軍紀」、キエフ・ロシアの物語。  |                      |
| 13～14   | モンゴルのくびき、キエフ・ロシア崩壊、クリコヴォの勝利、南スラブ民族との交流  |                      |
| 15～16   | 14～16世紀の文学の流れ、『ザドンチナ』(14世紀末、作者不詳)、『三つの海への旅行記』(アフナーシイ・ニキチン)                          |                      |
| 後期  |   |                      |
| 回   | 内 容   |                      |
| 1～2   | 17世紀の文学、17世紀の教会の中の分離。『長司祭アバクーム自伝』。  |                      |
| 3～4   | ピョートル1世の改革。文学面での組み替え  |                      |
| 5   | 18世紀の文学、エカテリーナ女帝のロシア社会、漂流民ゴンザ (世界最初の露和辞典の作者)  |                      |
| 6～8   | ロシア詩法の確立: カンテミール、スマローコフ、トレジアコフスキー、ロモノソフ   |                      |
| 9～12  | 一つの文学の体系の形成、個人の確立、ロシアの劇場の成立 (ノヴィコフ、フォンヴィージン)  |                      |
| 13～16   | 古典主義の衰退と2人の文学者、ラジシエフ・カラムジーン。文体の改革、デルジャーヴィン。   |                      |

|            |  |                       |
|------------|--|-----------------------|
| 教科名        | ゼミナール「外国語としてのロシア語」(前・後期)   |                       |
| 学年・学科名     | 第2学年 ロシア語科   | 【担当教員】 イリイン・セルゲイ      |
| 時間数・期間     | 前期 16週 2時間・32時間  | 後期 16週 2時間・32時間 総64時間 |
| 教科書など      | 使用しない。   |                       |
| 補助教材・参考書など | С.Н.Ильин «Основы русского синтаксиса», ДВФУ в г. Хакодате, 2016.<br>(ロシア語構文の基礎) |                       |
| 学習到達目標:    | 1年次に覚えた語彙・文法を生かしながら新しい文法項目を習って、語彙や表現法を学び、ロシア語の総合的な運用能力を高める。                      |                       |
| 学習上の留意点:   | 1. テキストの読解を意識して授業を進める。<br>2. 新しい語彙・文法を使いつつ、質問事項には自分の意見を盛り込んで答えること。               |                       |
| 評価方法:      | テスト、中間テスト、期末試験、年末試験  |                       |
| 授 業 項 目    |  |                       |
| 前期         |  |                       |
| 回          | 内 容  |                       |
| 1~4        | テキスト① 文の成分、文の主成分   |                       |
| 5~8        | テキスト② 不拡大文と拡大文   |                       |
| 9~12       | テキスト③ 文の二次的成分  |                       |
| 13~16      | テキスト④ 主成分の表現、主語の表現   |                       |
| 後期         |  |                       |
| 回          | 内 容  |                       |
| 1~3        | テキスト⑤ 二次的成分の表現、補語、直接補語と間接補語  |                       |
| 4~6        | テキスト⑥ 定語、一致定語、物主代名詞、形容詞比較級、副詞  |                       |
| 7~9        | テキスト⑦ 付語   |                       |
| 10~12      | テキスト⑧ 状況後、場所の状況語、場所の状況語に使われる前置詞の用法   |                       |
| 13~15      | テキスト⑨ 時間の状況語、時間の副詞、代名詞、前置詞をともなう名詞、副動詞と副動詞的表現、時の状況語に用いられる前置詞の用法                   |                       |
| 16         | テキスト⑨ 時間の状況語、時間の副詞、代名詞、前置詞をともなう名詞、副動詞と副動詞的表現、時の状況語に用いられる前置詞の用法                   |                       |

|   |                                     |             |                       |
|---|-------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 教科名   | 体育 (前・後期)                           |             |                       |
| 学年・学科名  | 第2学年 ロシア語科 (選択科目)<br>ロシア地域学科        | 【担当教員】高橋 厚一 |                       |
| 時間数・期間  | 前期16週 2時間・32時間 後期20週 2時間・40時間 総72時間 |             |                       |
| 教科書など   | 使用しない                               |             |                       |
| 補助教材・参考書など  | 縄跳び使用各自用意                           |             |                       |
| 学習到達目標：運動の計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を伸長する。 |                                     |             |                       |
| 学習上の留意点：特になし  |                                     |             |                       |
| 評価方法：出席 (50%) 授業態度 (40%) 試験 (10%)   |                                     |             |                       |
| 授業項目  |                                     |             |                       |
| 前期  |                                     |             |                       |
| 回   | 内 容                                 | 回           | 内 容                   |
| 1   | オリエンテーション                           | 9           | バスケットボール (ゴール型) 4     |
| 2   | 体ほぐしの運動 1 器械運動                      | 10          | バスケットボール (ゴール型) 5     |
| 3   | 体ほぐしの運動 2 器械運動                      | 11          | バスケットボール (ゴール型) 6     |
| 4   | 体ほぐしの運動 3 持久走                       | 12          | バスケットボール (ゴール型) 7     |
| 5   | 体づくりの運動 4 持久走                       | 13          | スポンジテニス (ネット型) 1      |
| 6   | バスケットボール (ゴール型) 1                   | 14          | スポンジテニス (ネット型) 2      |
| 7   | バスケットボール (ゴール型) 2                   | 15          | スポンジテニス (ネット型) 3      |
| 8   | バスケットボール (ゴール型) 3                   | 16          | スポンジテニス (ネット型) 4 実技試験 |
| 後期  |                                     |             |                       |
| 回   | 内 容                                 | 回           | 内 容                   |
| 1   | 体づくりの運動 5 器械運動                      | 11          | バレーボール (ネット型) 7       |
| 2   | 体づくりの運動 6 器械運動                      | 12          | バドミントン (ネット型) 1       |
| 3   | 体づくりの運動 7 持久走                       | 13          | バドミントン (ネット型) 2       |
| 4   | 体づくりの運動 8 持久走                       | 14          | バドミントン (ネット型) 3       |
| 5   | バレーボール (ネット型) 1                     | 15          | バドミントン (ネット型) 4       |
| 6   | バレーボール (ネット型) 2                     | 16          | アイススケート               |
| 7   | バレーボール (ネット型) 3                     | 17          | アイススケート               |
| 8   | バレーボール (ネット型) 4                     | 18          | ダンス 1                 |
| 9   | バレーボール (ネット型) 5                     | 19          | ダンス 2                 |
| 10  | バレーボール (ネット型) 6                     | 20          | まとめ・実技試験              |

|  |  |                    |
|--|--|--------------------|
| 教科名  | ロシア文化史（前期）   |                    |
| 学年・学科名   | 第2学年 ロシア語科   | 【担当教員】 デルカーチ・フォードル |
| 時間数・期間   | 前期16週2時間・32時間 総32時間  |                    |
| 教科書など  | 教科書：F・デルカーチ「中世ロシア文化史」、函館、2009  |                    |
| 補助教材<br>参考書など  | 随時配分プリント、スライド、ビデオ教材  |                    |
| 学習到達目標：  | ロシア文化（特にロシアの伝統、宗教、思想と芸術）に関する総合理解をも学生に与える他、文化学の基本思想および用語の知識を与える。現代ロシアの国民性、言語、経済状況などの文化的な背景を理解できる。   |                    |
| <p>学習上の留意点：ロシア文化の主要な特徴、その発展の時代区分、ロシア文化史における主要出来事と人物を覚える。ロシア芸術の代表作、その内容と創造背景の知識を持つ。</p> <p>「文化」と「文明」の違い、文化形態、文化の機能、文化の主体と客体、文化発生、文化的言語、民族文化と国民文化の違い、東洋文化と西洋文化の違い、文化進展の原理などを理解できる。</p> |  |                    |
| 評価方法：中間テスト、期末試験、学年末試験  |  |                    |
| 授 業 項 目  |  |                    |
| 前期   |  |                    |
| 回  | 内 容  |                    |
| 1～2  | ガイダンス、<br>【入門】東洋の「文化」と西洋の「Cultus」。文化の定義とその主要タイプ、集団労働と文化発生。文化の機能と形態、主体と客体、文化と文明の定義。   |                    |
| 3  | 【時間と空間における文化】文化的言語の主要単位である「記号体系」。記号の定義と記号体系の主要類（自然記号、コンベンショナル記号、口頭記号、文字記号）   |                    |
| 4～5  | 【文化の発生と進展原理】文化進展の不規則性。原始文化の部族分離と古代・中世文化の社会内分離。農民文化、文化と信仰（宗教）、都市化と中世の終わり。近代における文化の分離。文化発展の転換期。文化普及の原理。  |                    |
| 6  | 【芸術】芸術の定義と分類。芸術発生の四論（生物論、ゲーム論、信仰論、労働論）。芸術進展の総合傾向。  |                    |
| 7  | 【文化史の科目】民族文化の進歩要因。「地理的決定論」の欠点。各時代における人間と環境の関係。各時代における文化進展傾向（発生→学習→保守→革新）。文化の後継と転換期。  |                    |
| 8  | 【ロシア文化史の概要】ロシア文化の6時代。世界におけるロシア文化の位置づけ。   |                    |
| 9～11   | 【スラブ文化】スラブ文化の起源。スラブに関する最小情報源。インド・ヨーロッパ語族におけるスラブの位置づけ。ロシア文化発生に関する論議（ノルマン論、スラブ論、南北論）。スラブ民族の現代区分、東スラブの部族。ロシア文化の二首都（キエフとノヴゴロド）。古代スラブの芸術。スラブの隣民族。 |                    |
| 12   | 【スラブとロシアの神話】多文化から生まれたスラブ神話。神話の進化。スラブ神話に関する古代ロシアとヨーロッパの記録。二重信仰、ロシア民話やおとぎ話に見られる神話の痕跡。  |                    |
| 13～14  | 【スラブと霊界】神話の主要類（宇宙発生、宇宙構造・英雄）。スラブによる「心、魂」の考え方。鳥と関連する伝統と迷信。宇宙観と生死観、死と社会。葬儀と供養、祖先崇拜。霊界との関わり。「世界大樹」の神話。ロシア民族衣装と民家に見られる宇宙のシンボリズム。                 |                    |
| 15～16  | 【キリスト教】古代「新興宗教」の発生（仏教・キリスト教・イスラム教の登場）、その共通点と違い。キリスト教の内容、土着信仰の世界観と宗教。宗教の老化、文化と宗教。「バイブル界」と「ヴェエダ界」。ロシアへのキリスト教伝来とその歴史的な意義。キリスト教伝来とロシア社会。         |                    |

|                              |   |              |
|------------------------------|---|--------------|
| 教科名                          | 法学入門（前期）  |              |
| 学年・学科名                       | 第2学年 ロシア語科（選択科目）<br>ロシア地域学科                                 | 【担当教員】 荒木 知恵 |
| 時間数・期間                       | 前期8週 2時間・16時間 総16時間   |              |
| 教科書など                        | なし  |              |
| 補助教材・参考書など                   | なし  |              |
| 学習到達目標：                      | 論理的思考が向上し、様々な利益の考慮ができるようになる。<br>日常的に生じる法律問題について基礎的知識を身に着ける。 |              |
| 学習上の留意点：常に対立利益の存在に留意する。      |   |              |
| 評価方法：出席（50%）授業態度（20%）試験（30%） |   |              |
| 授 業 項 目                      |   |              |
| 前期                           |   |              |
| 回                            | 内 容   |              |
| 1                            | オリエンテーション   |              |
| 2                            | 民事法   |              |
| 3                            | 民事法   |              |
| 4                            | 民事法   |              |
| 5                            | 刑事法   |              |
| 6                            | 模擬裁判①   |              |
| 7                            | 模擬裁判②   |              |
| 8                            | 筆記試験  |              |